

箕輪町 議会だより

みんなの議会



第79号

2022.2.1



伝統をつなぐ「古田人形芝居物語」

西小学校4年生 手づくり人形で熱演

親しみやすい
議会だよりを
目指して

- 12月定例会・補正予算
議会活動日誌 ……………P2・3
- 委員会審査の概要 ……………P4

- 町政を問う ……………P5～19
- がんばってます！「箕輪中学校合唱部」
編集後記 ……………P20



議会ホームページ

12月定例会

12月定例会は、11月29日から12月13日までの15日間の会期で開催されました。一般質問には、14議員が登壇し、町政運営を質したほか

- ・一般会計、特別会計、企業会計各補正予算
- ・箕輪町保育園設置及び運営に関する条例の一部改正など、15議案を慎重審議の結果14議案を原案通り可決、1議案が否決されました。

●補正予算

新型コロナウイルス感染症関連の主な施策

事業名	事業の概要	予算額
みのわ生活応援券	収入が減少した世帯の経済的負担を軽減する目的としてクーポン券を配布	3,449万円
診療・検査医療機関応援交付金	発熱患者の外来診療及び新型コロナウイルス感染症の検査体制を整え、その対応に当たっている医療機関に対する支援増	50万円
(国) 新型コロナウイルスワクチン接種事業	新型コロナウイルスワクチンの町民への円滑な接種を実施するための経費増	1億3,644万円
(県) みのわプレミアム付き応援券	地域での消費拡大を喚起するプレミアム付き応援券の販売増	2,960万円
危機突破事業継続支援金	飲食店及び飲食店の休業要請の影響を受ける酒類の販売事業者や、人流の抑制の影響を受ける交通事業者・観光事業者・イベント事業者に対する支援金	3,200万円
宿泊応援キャンペーン助成	箕輪町内の宿泊施設に3千円割引で宿泊できるキャンペーンに対する助成増	774万円
フェンシングのまちづくり事業補助金	全国大会実施に伴う選手・関係者等へのPCR検査費用の一部を助成	50万円
(国) 住民税非課税世帯等臨時特別給付金	住民税非課税世帯等に対して、1世帯当たり10万円の現金を給付	2億1,306万円
(国) 子育て世帯臨時特別給付金	対象となる子ども1人当たり5万円を現金により支給	2億72万円
みのわガソリン・灯油等購入助成券	各種燃料価格の上昇による町民の経済的負担を軽減するため購入助成券を発行	6,166万円
福祉サービス事業所原油高騰応援金	原油価格高騰に伴う社会福祉施設等の経済的負担を軽減するための応援金	126万円
施設園芸経営支援金	原油価格高騰に伴う施設園芸農家の経済的負担を軽減するための支援金	330万円
原油価格高騰対策事業者支援金	原油価格高騰に伴う交通事業者・クリーニング事業者の経済的負担を軽減するための支援金	90万円

その他の予算

ふるさと応援寄付金業務委託料増	4,950万円
ふるさと応援基金積立金増	9,000万円
複合施設詳細設計等委託料	4,800万円
障がい福祉サービス給付費増	6,340万円
工場等設置事業補助金増	800万円
町単独 林業施設災害復旧工事等増	925万円
松林保護樹林帯造成(樹種転換)業務委託料増	904万円
林業施設災害復旧工事増	4,409万円



施設園芸経営への燃油代支援



燃油購入助成券に期待する町民

● 主な条例制定

箕輪町保育園設置及び運営に関する条例の一部改正

木下北保育園・木下南保育園を廃止し、新たに木下保育園を設置

箕輪町国民健康保険条例の一部改正

出産育児一時金を404,000円を408,000円に改める改正

箕輪町特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部改正

特定教育・保育施設等が作成する書面等に代え、電磁的方法が可能とする改正

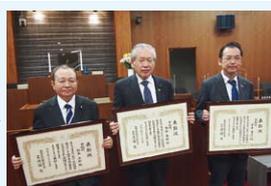
● 賛否が分かれた審議

● 議長は原則として採決に加わらない。○ = 賛成 × = 反対
● 詳細に関しては箕輪町議会ホームページで、後日議事録を閲覧することができます。

提案の趣旨	提出者	荻原省三	木村英雄	釜屋美春	伊藤隆	寺平秀行	松本五郎	唐澤敏	岡田建二朗	青木俊夫	中澤清明	金澤幸宣	中澤千夏志	入杉百合子	中村政義	小出嶋文雄	結果
箕輪町議会の議場に国旗及び町旗を掲揚することを求める請願	日本会議いづみ会 会長 水野 洋一 斎藤 里美	○	×	×	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○	-	不採択
	<p>【賛成討論】*国旗は国で決められたもので、議場に国旗があっても何ら問題はないし、本来あるべきものでおかしき事はない。町民の中から意見が出てきたという事は機は熟してきていると感じる。 *議場に国旗及び町旗を掲揚するという内容については異存なしと考える。</p> <p>【反対討論】*議会の自主性、自立性の下に議論されるべきであり、改めて議員間で慎重に論議を重ねて決定すべき。 *政治的、イデオロギーの問題については、議論を重ねて議員の総意のもとで集約すべき。 *日の丸国旗は戦争アレルギーを感じる方もいるのも事実、賛否を決することは控えるべき。 *議会の自主性を尊重し、全員協議会で図ってその結果を踏まえて次回の議会までに慎重な議論をすべき。 *国旗を掲げる事は憲法19条に規定されている「良心の自由」を侵す行為になるのでは。 *当町では戦後、議場に国旗は掲揚されたことはなく、今になってなぜ掲げなければならないのか、納得がいかない。</p>																
議場における国旗及び町旗の掲揚に関する決議について	荻原省三	○	×	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○	-	否決
<p>【賛成討論】*決議の機は熟した。 *議場に国旗及び町旗を掲揚することについてはなんら異存なし。</p> <p>【反対討論】*議論を重ねる中で結論を導いていくことが必要。 *議会運営委員会で結論を出し、議会の決議がいいのか、あるいは条例、規則でやるのか検討する必要がある。</p>																	

表彰

木村英雄議員、松本五郎議員、寺平秀行議員は、多年にわたり地方自治の進展に尽力した功績により、昨年10月25日、長野県町村議長会会長から表彰されました。



区長会との懇談会 令和3年11月2日

議会と区長会の意見交換会を行いました。15区の区長からは、少子高齢化による役員のなり手不足、財産区の山林の管理、災害対策など大きく三つの意見が出されました。議会からは、過去の委員がサポートに回り現役を助けてはどうか。男女共同参画により、若者と女性の参画を拡大するべきではないか。災害対策では、日頃から区内の建設業者等との災害協定を結ぶことが必要ではないかとの意見が出ました。これからの区の在り方について切実な問題が目前に迫っていることを実感しました。区長から出された課題に対し、少しでも改善に向かえるよう、全力で取り組みます。



議会活動日誌 議会活動の一部を紹介します

10月

- 1日 議会運営委員会臨時会
- 5・7日 議会広報特別委員会
- 8日 伊北議員研修会(オンライン)
- 13日 議会広報特別委員会
- 22日 上伊那広域管内研修

11月

- 2日 区長会との意見交換会
委員長会議
- 5日 議会運営委員会
臨時会・議会活動活性化委員会
- 16日 イクボス・温かボスセミナー
- 17日 議会運営委員会
- 29日 12月定例会開会

12月

- 6・7日 一般質問
- 8～10日 委員会審査
- 9日 議会運営委員会(委員外議員出席)
- 13日 12月定例会開会・議会運営委員会
- 15日 広報特別委員会(動画研修)
- 23日 議会広報特別委員会

委員会審査の概要

総務産業常任委員会

令和3年度一般会計補正予算（第10号）

問 行政も民間も活用できる「ほたる系ネットワーク」とは何か。目的も含めて具体的な説明を。

答 長野県経由ではなく、塩尻から辰野経由で箕輪に入ってくるネットワーク。県のものより自由度がある位置づけ。今回の補正は現在の回線を残し、もう1回線増設し2本構成とするための費用。災害等で1回線切断した時のリスク回避のために準備したい。

問 「上伊那森林組合ペレット生産ライン整備事業補助金」の総事業費と事業内容は。

答 総事業費は6,000万円。国庫補助対象事業5,412万円の1/2（2,706万円）が国庫補助。補助残額の15%を市町村で負担。箕輪町は市町村負担の8%相当額を負担。事業内容は木質燃料を製造する機械の老朽化による入れ替え。



問 ふるさと応援寄付金増額の要因は。

答 前年度よりも返礼品を増やした。主なものはミックスナッツである。非常に好評で半分近い注文がある。

箕輪町税条例の一部を改正する条例

問 国の標準税率に従うとし「連結法人税額の課税標準の算定期間を削る」とあるが、連結法人にあたる法人は箕輪町にあるのか。

答 13の連結法人がある。

現地確認

総務産業常任委員会

- 日時 12月9日 ●出席者 委員7人
- 内容 ・8月豪雨災害被災現場復旧3箇所
・町道88号伊那箕輪線(通称春日街道)
二重認定区間変更箇所



福祉文教常任委員会

令和3年度一般会計補正予算（第10号）

問 障がい福祉サービス給付費増加の要因は。

答 利用者が増加し、就労支援B型が昨年に比べ、9月の段階で11%増えており、放課後デイサービスは昨年に比べ29%増えているなど給付費は年々増加している。決算ベースで平成30年度は4億1,000万円。令和元年度は4億6,000万円。令和2年度は5億600万円。本年度は5億2,000万円の見込みとなっている。

問 博物館所蔵資料運搬委託料の内容は。

答 運搬にかかる日数は2日間を予定。土器が200～300箱とコンクリートの彫像で中原と長岡の収蔵施設で整理する。



問 中学校、消耗品費の内容は。

答 西駒登山で使用する、トランシーバー購入の費用である。

令和3年度国民健康保険特別会計補正予算（第3号）

問 マイナンバーカードと健康保険証の登録状況は。

答 マイナンバーカードの保険証利用登録件数は全国では606万166件で町の状況はこれから。利用可能な病院は伊那中央病院で3月には整えたい。

保育事業の基準を定める条例

問 保育園の入所手続きは今後どうなるのか。

答 保育園への入所など同意が必要なものに対して電子申請が可能となり、国のすすめる「ピタリサービス」を利用する。町民がピタリサービスを経由して行った電子申請を町が受け取れる流れになる。

現地確認

福祉文教常任委員会

- 日時 12月8日 ●出席者 委員7人
- 内容 ・木下保育園 建設事業工事の現状
・中原博物館所蔵施設の設備状況



ここが聞きたい

山神社

町政を問う

木下一之宮碑は「山の神」であり「田の神」



解説

木下一の宮にある「一之宮碑」は、江戸時代末期、嘉永3年(1850)に建てられたもの。一之宮碑によると、この場所は箕輪南宮神社が元あった場所と記載。一の宮の最上部、これから山へという格好の場所、昔からの地名も「山の神」。

春から秋にかけては、「田の神」として百姓を守り、農作業が一段落し、山の仕事が始まる旧暦10月10日は「とうかんや」という山の神の祭日。「山の神」となって冬中、山を守られ、来春旧2月8日(事始め)には、再び「田の神」となって里へ下りられる。

山の神は道祖神・庚申様と共に日本古来の代表的民間信仰であるという。

(参考文献)箕輪町の文化財・木下区誌

主な質問	議員	ページ
みのちゃんカード利用範囲の拡大を	伊藤 隆	6
もみじ湖観光 今後の位置付け、町長の認識は	金澤 幸宣	7
任期最終年を迎えて、白鳥町政2期目の自己評価は	中澤 清明	8
加齢難聴者に補聴器購入補助制度を	松本 五郎	9
子宮頸がんワクチン接種再開の周知・促進を	釜屋 美春	10
町の強みを生かした企業誘致の方向性は	寺平 秀行	11
性的少数者に寄り添う取り組みは	入杉百合子	12
新年度予算編成における具体的取り組みは	木村 英雄	13
女性活躍の推進に自己実現の場づくりを	唐澤 敏	14
樹勢回復事例 どう動くか	中澤千夏志	15
企業誘致は今後、町が取り組む成長戦略では	青木 俊夫	16
8月豪雨災害後の検証で見えてきた課題は	中村 政義	17
原油高騰を受け、緊急的な生活支援・業者支援を	岡田建二郎	18
大変厳しい状況にある農家の現況と支援は	荻原 省三	19

一般質問はどなたでも自由に傍聴できます

一般質問は、年4回の定例会(3月、6月、9月、12月)で、町政全般にわたり町長その他の執行機関に対し、自由な質問内容を開会日の翌日正午までに議長に通告することとしています。議員一人の制限時間は55分で、一問一答方式を採用しています。12月議会では、12月6・7日の2日間に、14人の議員が質問しました。



伊藤 隆 議員

みのちゃんカード 利用範囲の拡大を

町長 これからも検討させていただく

問 町の施設でプレミアム商品券の使用はできるが、みのちゃんカードによるポイント使用はできないところがある。



商工観光室長 ながた荘とながたの湯の温泉入場券はカードによるポイント使用の場合は時間がかかりすぎてしまうため、売店利用に限定している。今後利用範囲の拡大を検討していきたい。

産業振興課長 ファームテラスみのわについてはレジ操作も不慣れな中でポイントカードへの対応が難しいことと対象商品と対象外商品の仕分けや返金処理によるポイントの再計算、JAカードとのすみ分けの課題があり、導入に至っていない。



衆議院選挙での 若年層の投票率は

問 選挙権年齢が18歳に引き下げられてから回数を増すごとに若

年層の投票率が下がってきているが、10月の衆議院選挙での投票率は。

選挙管理委員長 箕輪町の傾向として18歳でマイナス0.5ポイント減少、19歳は10.5ポイント減少している。全国的には1.5ポイントの増加に対し、箕輪町では6.13ポイント減少となったが、19歳については、住所を置いたまま就学等で県外に住んでいる方が多いのが理由ではないかと思われる。郵送を活用した不在者投票制度の活用方法を高校の出前講座や模擬投票で周知していきたい。



SNSなどによる 小中学生、高校生の 悪い影響について

問 SNS等により悪い事件などのニュースが多いが、小中学生、高校生で問題がおきていないか。



教育長 子供たちによるSNS関係のトラブルは大人から見えない状況下で進行している場合が多く、軽い気持ちで通信し合っただけでトラブルに発展してしまうためネットモラルの向上に努めている。相談窓口には毎月数件の相談があるが、アドバイザーの適切な指導により大きな問題になる前に解決している。相談内容や対処方法は個人が特定されないようにした上で、学校と共有している。

もみじ湖で発生した 渋滞について

問 以前から渋滞緩和策について要望をしていたが、今年も渋滞が発生した。近隣住民や来場者から苦情が多かった。シャトルバスの運行や一方通行の道路整備を行ってみたい。

町長 土日、祝日に新たに交通誘導員8人を配置したが、想定を超える人数の来場があった。観光地としてどこまで整理するのが良いのか。さまざまな問題点を踏まえてどのような形にしていくのが良いのか関係団体と知恵を絞っていきたい。



もみじ湖観光 今後の位置付け、町長の認識は



金澤 幸宣 議員

町長 観光位置付け 知恵を絞り早期に結論

問 飛躍的な来場者の増加で様々な問題が顕在化。今後どう位置付けるかが最重要。町長の認識は。

町長 観光地としてどこまで環境整備するか。地域の合意形成が必要。住民の日常生活の安全・安心が第一。関係団体などと知恵を絞り早期に結論を出して行きたい。

問 不満の声の一つに携帯電話の不通がある。電波塔整備が必要では。

町長 危機管理上の課題もあり来年度までには整備する予定。

問 “もみじのトンネル” 保全には歩行者専用が必須。末広広場への車の乗り入れに迂回路整備は。

町長 地形的な課題が大きい場所でもあり、現実問題として難しい場所だが提案は検討したい。

問 『もみじ湖』のブランドが確立していないと感じるが必要では。

町長 もみじ湖の名称は、愛称の位置付け。来過ぎても困るが、ブランド化の確立は必要と思う。



整備された周辺の散策路マップ看板

木下原町交差点 信号変更後渋滞増幅

問 感知式から定周期方式に変更後、渋滞が増幅し4号線に回避する車が増加した。木下保育園開園前に早期改善すべきでは。

総務課長 早速伊那警察署に確認した。変更可能ということで近日中に改善予定。

問 町内設置信号の再チェックが必要では。

町長 毎年必要な調整は実施している。基本的には感知式は廃止方向と聞いている。



定周期方式への変更を知らせる看板

「義務教育の役割」は何と考えるか

問 ICT、授業改善が進む中、義務教育の役割は何と考えるか。

教育長 社会の良き形成者を育てる社会側面からと、土台を作る個人側面からの2面と思う。基礎的な知識、技術の習得、深く考える力、正しい判断力、豊かな想像力、それらとともに健やかな体を培い将来に渡り自分らしく生きる力をつけて行く。そういう役割を担っているのが義務教育と考える。

町の脱炭素社会 実現の取り組みは

問 EV 転換が世界の潮流。充電インフラの早期整備が必要では。候補地は、みのわテラスが必須。その他に夢まち Labo、ながた荘も視野に入っているか。



設置が進んだ道の駅「南アルプスむら長谷」の急速充電スタンド。2台同時充電が可能

町長 地球温暖化対策特別委員会でも論議している。実行計画に織り込む。課題は、供給電力が石油燃料由来の電力。当町でも必要箇所への導入は検討して行く。

問 EV活用と併用の災害支援ネットワークのその後の進捗は。

町長 他自治体でも実施が進んでいるので販売店とは災害時のEV 対応協定を実施・調整したい。EV 所有者とのネットワークは、給電器普及の問題もあり、現在は進んでいないが、大きな出力を出すので必要性は感じている。個別のネットワークは難しい部分もあるが、調整するよう指示する。



中澤 清明 議員

任期最終年を迎えて、白鳥町政2期目の自己評価は

町長 公約は全て着手、満足度等合格点レベル

問 ①町長は2期目就任にあたって公約の48の基本政策、箕輪チャレンジ項目を推進し、将来を見据えた積極果敢な取組み、着実に先手を打つ取組みを行うと訓示されていたが、どのくらい出来たのか？自己評価は。②地域に出て住民の声を聴くことが大事と言っていたが、住民の声や評価をどう聴いてきたか。③最終予算編成で特に意を注いだ点は。④町長職は大変な激務だが、3期目を求められた場合、体力気力は十分あるとお考えか。

町長 ①約束した48項目は実施済み又は取組み中で未実施のものはない。取組みの成果という点ではどうかと感じている点はあるが、住民満足度の数値等を考えると合格点レベルにあると思う。②町長への手紙では216件の意見、提案をいただいた。また地区懇談会では約300人の参加者から、170項目の意見質疑をいただいた。これで十分かは整理が必要だが、出来る限り町民の声を反映することが大事と考えている。③人口減少に歯止めをかける少子

化対策・移住対策、新たな視点としてゼロカーボン、DX、SDGsを採り入れること、コロナと災害への配慮などである。④気力、体力は十分と思う。

バイパス4車線化供用開始の課題

問 国道バイパス4車線化が供用開始になり、利便性や安全性について様々な声が聞こえる。平成30年、31年の一般質問でバイパスに接続する町道の整備計画を要望してきたが、実現しないまま供用開始を迎えた。①北小児童通学への影響、沢保育園園児送迎への影響、沢駅利用の中高生の送迎への影響、バイパスを横切る生活車両への影響を早急に調査していただきたい。②その上で周辺町道の改良改善等の利便性及び安全性向上対策を実施していただきたい。

町長 ①区内の道路の交通量の変化とか危険性の増大の調査は必要。早期に対応させていただきたい。



供用開始した国道バイパス交差点

い。②道路環境の変化によって、交通の流れや安全面が影響を受けるので、拡幅等が必要な箇所があるか考えていかねばならないし、交通安全対策については現場を確認しながらできる限り早期に対応したい。

原油高騰に対する町独自の支援策

問 原油高騰で町民生活に大きな影響が出ている。近隣市町村では住民や事業者支援策を打ち出しているところもある。箕輪町でも支援策を講ずべきと考える。①特に生活弱者への支援は必要だがどのように考えているか。②暖房用、動力用燃料等で大きな影響の出ている事業者への支援はどのように考えているか。

町長 ①生活弱者には1万円の生活応援券を交付してきた。全員が影響を受けていること、灯油以外の暖房を使っている方も考慮して考えていく。②大きな打撃を受けている社会福祉施設は支援が必要。施設園芸農家等については現在調査中で、その状況によって検討する。

※町独自の原油高騰支援策は最終日に追加提案され可決された。



加齢難聴者に 補聴器購入補助制度を

町長 まだ結論がでていない 時間を頂きたい



松本 五郎 議員

問 周囲の方に何うと高齢で耳の遠い人は、集会の中での発言者の声の質によって聞きとりにくいことがある。仕事の関係では聞こえなくて理解できていないのに、空返事をしてしまうことが多くなった。補聴器を購入しない理由の一位は価格が高いことがあげられている。町に補助制度があれば所有したい人もいる。難聴は対策をとることで予防ができるため、補聴器購入補助制度を行うべきでは。

町長 医療・社会福祉・障がい者支援制度の中で本来整理される問題であり、それが制度設計だと思う。いろんな問題、ケースがありどのレベルにこの問題を落とし込むという点については結論が出ていない、時間をいただきたい。

認知症のリスクが2倍上昇する

問 中年期に難聴があると高齢期に認知症のリスクが2倍上昇と発表されている。補聴器を適切に用いることで、認知症のリスクが軽減するが。

町長 エビデンスとして正確に位置付けられれば補聴器の必要性は明らかになると思う。

欧米諸国は医療問題で補助してる

問 難聴率は欧米と同じレベルなのに日本の所有率は半分以下。日本補聴器工業会の調査によると医療費の問題として補助が行われているため、イギリスでは47.6%、日本は14.4%、この極端に低い所有率は補聴器の高額のところにある。町長の考えは。



高額のため日本では所有率が低い補聴器

町長 経済的な問題もあるが、使用する方の考え方に基づいてもある。町の状況を把握し、周知に努める。

広報で実態や状況を知らせ啓発を

問 ストレスや睡眠不足等で加齢性難聴に結びついていく可能性もある。町民の中には加齢性難聴の状況は余り知られていない。町の広報などで実態や状況を知らせ、啓発を。

町長 専門的な領域や医療・福祉などの問題があるので知らせていく必要がある。補聴器、現在の制度についても周知されていない部分もある、広報等で知らせる。

ソーラーパネル規制条例制定を

問 新聞報道で富士見町が太陽光発電施設の設置規制を強化するため、町内全域を抑制地域として事業者に関係区の同意を求め方針を打ち出したとある。現在町はガイドラインであり、指標や指針の意味で拘束力はない。条例は規制であり法令。数か月前、長田常会にソーラーパネルが増設された。建設前の説明会の中で、安全面などを住民が質問したところ、「その時その時で考える」との横柄な答弁に、あきれ果てたようだ。大きな企業がどうしても優先してしまう。乱開発規制のできる条例制定をすべきでは。



安全面を心配するソーラーパネル

町長 業者の対応は条例で規制すれば直るものではない。二元型条例をつくるのか、規制をする条例として考えて議論すべき。業者の事業計画で悩む地域住民が非常に多くなっている。ガイドラインでは十分なのか検討する時期に来ていると思う。



釜屋 美春 議員

子宮頸がんワクチン接種再開の周知・促進を

町長 中学校と協力し接種の有効性を周知する

問 厚生労働省は令和4年4月から、子宮頸がんワクチンの接種再開を決定した。再開の要因は、英国ではワクチン接種をした女性で、のちに子宮頸がんになるリスクが大幅に（85%）減ったというデータや、接種後の副反応への支援体制が整ったことなどがあげられる。箕輪町において再開に向けた課題や取り組みは。

発達に支援が必要な人のために

問 ①発達支援で大切な「個別支援計画」が保育園、小学校、中学校へ適正に引き継がれているか。②1人1台パソコンが進められているが、特別支援学級においてもICT教育の充実した授業が行われているのか。

教育長 ①教育相談員が年中のときから参観検査し、保護者・園長・担任と懇談を重ね、その子の良さ、困難点、属性、また指導の配分を理解して保育園の個別指導計画と共に小学校に引き継ぐ。小学校では特別支援コーディネーターや担任が参観資料と成長ダイアリーを基に保護者の気持ちを入れ教育支援計画と個別指導計画をつくる。必ず毎年見直している。②特別支援学級でもPCは生徒の困難さをカバーできていて自信につながっている。「文章が苦手だったが得意になった」とか、学級のICTリーダーになったなど大変有効だと感じている。

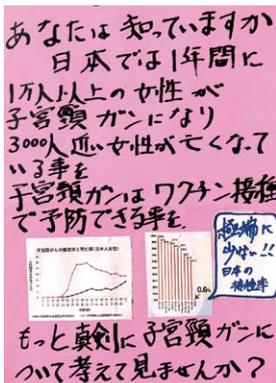
ない人への理解を求める「わけがありますくプロジェクト」の推進を進める自治体が増えている。マークをバッジやストラップなどにして、外出時に身に着け理解を求めるもの。箕輪町でも推進をしてはどうか。

健康推進課長 マスクの着用が難しい方がつらい状況になっていることはありうる。差別につながることは避けなくてはならない。町も周知していきたい。

バイパスの街路樹剪定方法は

問 国道バイパスのケヤキやハナミズキの形状が不自然との声があるが今後は

建設課長 車両や通行者に支障がないかを主眼に選定しており、樹形には配慮していない。伊那建設事務所と良い方法がないか検討する。



町民から寄せられた手づくりの啓発ポスター

町長 大きな課題は接種勧奨を控えてきた8年余の対象者への対応や接種後の副反応に対応する医療機関の把握、相談体制の整備等がある。国の方向性が決まり次第対応したい。接種者の警戒感が強いことが予想されるのでワクチンの有効性への理解のため情報提供に努める。

教育長 中学校ではがん予防の授業で子宮頸がんワクチンについても学ぶ。長野県細胞検査会から「愛は子宮を救う」という啓発用の冊子が中学2年生全員と小学校にも数冊ずつ送られている。活用し正しい理解を進める。

マスクをつけられない人に思いやりを

問 マスクは生活様式の一つとなったが、知覚過敏、障がいや皮膚の病気、呼吸器の病気などでやむを得ずマスクをつけられ



⑤中央分離帯のケヤキ

⑥道路側は県、歩道側は町で管理している

その他の質問

- グリーンベルトの両側への設置
- ファームテラスのバリアフリー化

町の強みを生かした 企業誘致の方向性は

町長 企業アンケートを実施して強化



寺平 秀行 議員

問 企業誘致に追い風が吹いている。全国有数の製造業集積地であるし、BCP（事業継続計画）への関心の高まりなど企業を取り巻く環境も変わってきている。それを生かした誘致活動をどうするのか。

町長 BCPの観点から申すとアフターコロナということも重要なポイントだと思っている。台風が少ない、安心して操業ができるということは、企業立地を進めるに当たってパンフレット等への記載は重点的に申し上げていく。企業誘致は企業訪問アンケートを実施する中で強化すべきだと考えている。

災害時の避難所、 増設策は

問 10月に信濃毎日新聞が首長アンケートを実施した。分散避難を促す取り組みとして箕輪町は「避難所の追加」と回答している。9月議会の町長答弁でも避難所について増設したいとの答弁があった。具体的にどのように進めていくのか。

町長 コロナの中で通常の災害についても避難所の運営は以前と比べて課題が多くなってきて難しくなっている。やはり避難所を増やしていかないといけない。文化センター、地域交流センターのほか、町民体育館、武道館、北小学校旧体育館、箕輪進修高校第一体

育館、中学校武道館を追加したい。各区にお願いをしていきたい。職員を配置するという考え方で追加したい。



避難所開設が想定される町民体育館

県内不登校が過去最多、 当町は

問 県内不登校が過去最多となった。当町の傾向と取り組みは。

教育長 欠席日数が30日以上の子供について統計を取っている。病気や家庭の事情、新型コロナウイルスへの感染不安など理由は様々だが、県の状況同様に増加傾向がみられる。町教委としては中間教室の指導員を昨年からは2名体制とし、あわせて家庭訪問での指導を行っている。中学校では校内の中間教室としてF組を設置している。今までなかなか学校と接点を持てなかった生徒が1台パソコンを通じてF組の担任とつながったり、登校して事業に参加したりといった動きが出ている。

出生数、今年度は

問 箕輪町の出生数も平成10年に257人であったものが平成30年には186人、令和2年には142人に激減したとの答弁があった。心配なのは、箕輪町の出生数は国全体の減少スピードを上回るスピードで減少していることだと思う。平成10年から30年の20年間で国全体の出生数は約24%減少したのに対し、箕輪町は約28%の減少だった。平成30年から令和2年の2年間でさらに加速して国全体の出生数は約9%減少に対して箕輪町は約24%の減少だった。今年度の見込みは。

町長 ここ10年間は170人から180人台で推移してきた。今年度は170人前後で一定の揺り戻しがある。

問 児童の減少で小学校の運営は心配ないか。

教育長 昨年度に比べて出生数が伸びているため、当面維持できる見通し。少子化と学校の老朽化もあり学校のあり方を検討せざるを得なくなる。



少子化の影響は



入杉 百合子 議員

性的少数者に 寄り添う取り組みは

町長 意見を聞きながら更なる展開を図りたい

問 心と体の違いに悩む人が私たちの周りには存在します。セクシャルマイノリティーの人たちが、自分らしく生きることができまちづくりへの取り組みは。

町長 現在までの状況では、11月の人権尊重のまちづくり講演会で取り上げ、8月に心と体の性が一致しない方を対象に交流会を開催し、4人の参加があった。取り組みは十分とはいえない。町民の意見を聞きながら、更なる展開をさせていきたい。

問 行政の窓口でジェンダーレスのサービスは何か行われているか。

町長 男女ということを前提に調査等している。必要性があるという部分はなくしていく方向。

問 法律上の性別が同姓同士のカップルは結婚できないことで多くの困りごとがある。パートナーシップ制度または条例に対しての町のスタンスは。

町長 隣接の市町村の動向を見ながら町としても考える時期が来ると思う。勉強しなければと思う。



問 学校で多様な性の存在を生徒に理解してもらうための啓発を進めるべきでは。名簿の男女分け、多目的トイレの対応は。

教育長 名簿は小・中学校で、あいうえお順を使用。トイレは全部の学校に多目的トイレがある。啓発として、保健室や相談室に多様な性があることや、そのままの自分でいてよいことなどが書かれた図書を置いたり、ポスターを貼って啓発活動を進めていきたい。

地域の課題に 男女共同参画を

問 役員のなり手不足など、地域の課題に男女共同参画の促進を。

町長 固定的な性別に伴う役割分担意識が町内の中に幾つもある。区の役割、常会の役割の中で60代70代でなければできないという意識は、変えていってほしい。男女を問わず若者の参画も同様。先進的な区の状況等を共有して議論を進めていただきたい。

高齢者に限定運転宣言 の推奨を

問 高齢運転者による交通事故が多発している。高齢者の危険運転回避のため「限定運転宣言」を推奨しては。

町長 福井県が県民向けに推奨しているが、夜間は運転をしない、雨が降ったらしない、長距離運転をしないと。拘束力はないが運転者自身が安全運転に取り組んでいくのは、かなり良い取り組みと思う。大変いい内容を紹介していただいたので、交通安全協会とも相談しながら検討したい。



第6波に向けて 対応と備えは

問 緊急事態宣言解除から2ヶ月余。韓国や欧州の感染拡大が止まらない。第6波に向けて対策は。

町長 3回目のワクチン接種体制の構築、緊急時の療養体制の整備、マスクの着用などの基本的な防止対策の引き続きの実施をする。町民の皆様には、3回目の接種に積極的に協力をして欲しい。日常生活や社会生活の中で影響を受けた皆さんには、相談体制をとっているので町の方に相談を。非常時緊急時にあってこそその役場だと思う。

新年度予算編成における 具体的取り組みは



木村 英雄議員

町長 移住定住、子育て支援、教育政策が中心

問 新年度も新型コロナウイルス感染症への対応、人口減少対策、また新規大型事業を始め、公共施設の耐震化、施設の長寿命化など多くの事業が計画されていると思うが、予算編成における具体的取り組みは。

町長 ヒヤリングはこれからだが基本的な考え方としては、人口減少対策を進める中で移住定住対策、子育て支援、教育政策を中心に考えたい。産業基盤としては、農業応援団計画、工業ビジョン等の具体化を進めていきたい。個別事業としてはデマンドタクシーをどういった形で進めていくか、コロナ禍にあつての介護保険、がん検診の充実、ICT支援推進委員等の組織化、もみじ湖の受け入れ対策、雨水排水対策が事業としては重点として挙がってくる。

人口減少対策を

問 人口減少対策は最重要課題であり新年度、最も力を入れるべき政策と考えるが。

町長 まずは少子化対策であり、コロナ禍の働き方の変化を踏まえ、U・Iターンの増加策や県外からの移住促進、宅地開発の促進、空き家の利用促進をとりいれたい。関係人口創出事業、結婚支援、拠点施設の活用も着実に進めていく。

通学路の安全対策は

問 町内通学路の緊急合同点検を実施し、改めて気づいた点はあったのか、また早急に対応しなければならない危険箇所は。

教育長 実際に現地に行き、点検を行うことで周囲の状況や交通状況等を改めて確認することができた。早急に対応が必要な箇所としては、自転車通学の生徒が滑りやすくなっている坂道のグレーチングや電話ボックスがあることにより横断歩道を渡る児童を車両が認識しにくい交差点、路線標識が薄いため、運転手が確認しづらい横断歩道や外側線等があげられる。



電話ボックス撤去前

車両が児童を認識しにくかった交差点



電話ボックス撤去後

町長 緊急点検の結果を受けて、町が対応出来る箇所はすぐに実施した。

学校との連絡等を デジタル化に

問 いま保護者は欠席、遅刻等の連絡のデジタル化を求めている。欠席・遅刻等の学校への連絡は時間帯が決まっており、連絡が集中し、なかなかつながりにくく、勤めの人には出勤時間の関係もあり苦慮している。保護者と学校との連絡手段のデジタル化は、学校の業務の効率化、保護者の負担軽減、迅速な情報手段に大きく寄与すると思うが。

教育長 現在、欠席・遅刻の連絡は連絡帳又は電話での対応となっており、朝の時間帯に電話がつかないなどの問題点があることは把握している。教育委員会としては、みのわメイトを用いた欠席・遅刻の連絡手段のデジタル化を今年度中に実施する予定である。利便性を確保したうえで欠席・遅刻連絡で終わらず、一人一人の児童生徒の状況を確認して温かい対応ができるよう連絡体制を整えていく。



唐澤 敏 議員

女性活躍の推進に 自己実現の場づくりを

町長 拠点として夢まちLaboの活用も図っていく

問 箕輪町男女共同参画計画の取り組みについての所見は。

町長 この5年間、井戸端会議の開催や女性活躍コーディネーターの配置などにより、地味ではあるが進展してきた。企業での働き方や地域における男女共同参画の実質化が課題となっている。

問 当町の女性人口の分析は。

町長 女性人口の比率は全体で49.8%、課題の生産年齢人口の女性比率は47.3%と女性人口が少ない。若い女性の都市部への流出が顕著となっている。今回の国勢調査の結果を踏まえ分析を進める。結婚や就職時でのU・Iターン等の増加策が必要となっている。

問 女性就業支援の取り組みは。

町長 女性が活躍できる地域を目指し、南箕輪村と共同で就業相談窓口を設置しており成果もある。

問 夢まちLaboの活用策を。

町長 とりわけ子育て中のママさんたちを、いかに集結させていくのかが重要なポイントとなる。



夢まちLabo 談話コーナー

夢まちLaboの活用策を探る場づくりについても検討したい。

問 女性の働きやすい環境づくり補助金の幅広い利活用を。

町長 女性の働きやすい環境づくりは、ハード面だけのものではない。女性従業員の定着も促進できるような仕組みを、新年度予算のなかで検討してみたい。

問 ジェンダー平等の促進における学校教育での現状と課題は。

教育長 中学校では、生徒に自分らしさを大切にして、お互いを認め合いながら良さを伸ばし発揮していこうというメッセージを大切にしている。生徒会役員などに女子生徒のリーダーが増えている。課題としては、身近な大人である教員や家族が意識改革を進めていくことが重要だと考える。

脱炭素社会づくり

問 ゼロカーボン推進の取り組みについての所見は。

町長 ゼロカーボンを通じ、生活を豊かにし、地域経済を活性化させ、防災・減災に役立つなどの意味合いを強める必要がある。

問 産業振興面におけるゼロカーボンの推進は。

町長 サプライチェーンとして



木下保育園
地中熱冷暖房パネル

も必須の条件となってくるので、中小企業の支援策が必要になってくる。新年度予算に取り入れる。

問 農業分野での脱炭素化は。

町長 有機農業の拡大には課題も多いが、国の政策でもあるので取り組みを広げることを考えたい。

問 脱炭素社会への施策展開は。

町長 基本的には、家庭も事業者も行政も自分ごととしての実効政策にし、来年の7月には計画を施行したい。また、PDCAサイクルを廻しながら評価していく。

問 気候変動に関する学校教育での推進状況は。

教育長 教科指導をはじめ、総合的な学習の時間などで横断的に環境教育を充実させていきたい。学校のなかのみならず地域の環境活動にも積極的な参加をめざす。

その他の質問

● 箕輪町の女性就業者の状況

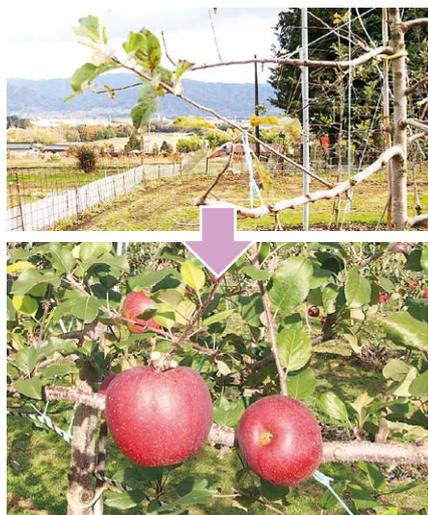
樹勢回復事例 どう動くか



中澤 千夏志 議員

町長/教育長 もみじ湖で試験・箕輪学の研究材料に

問 樹木はCO2吸収固定機能を発揮して成長。学校の桜等に樹勢劣化を示す「コケ」が目立つ。樹木の先端に含まれているミネラルに注目、枝を炭化し、根元に与えたところ「リンゴ果樹園」で樹勢が回復したという実践事例がある。評価を。どう動くか。



見事1年で樹勢回復を果たした「りんご果樹園」
JA「選果結果票」も高評価

町長 炭は農林水産省の報告からも効果が期待できる。町の農家さんにも紹介もしたい。もみじ湖のカエデ、役場庁舎の桜の樹勢回復のための方法論としてありうると評価。ご提供頂き、実証実験に参加頂けるとありがたい。

教育長 町内及び学校にも多様な樹木が植えられ、樹勢回復に有効と考える。理科や箕輪学の研究材料にもなるのではと評価でき学校にも紹介してまいりたい。

灯油価格交渉力の備えを

問 原油価格高騰に対する緩和と適応策として、灯油配送業者を特定しエリアを固定する定期共同購入を町が仲介役を担って、配送コストを下げれば低価格が実現できる。税金を使用しなくとも住民支援が可能と考えるが。

原油は精製工場で、ナフサ・A重油・C重油・灯油・ガソリン等同じ工程から出てくるが製品によって価格が違うのは何故か。製品ごとに買い手が違うからが答え。大企業は価格交渉力強いので安くなる。消費者は交渉力がないのでガソリン・灯油が高くなるのは必然。今後、世界でエネルギーシフトが加速するにつれて原油価格が上がっていく事は十分予測できる。価格交渉力を備えては。

町長 検討した事がない。

今後の原油高騰にどう対応

問 スウェーデンでは暖房に対する再生エネルギーシフトは既に90%完了。デンマークは風車、アイスランドは地熱、自分の町にあるエネルギーを活用。今後、「灯油価格が上がって冬が越せない」という住民の悲鳴が益々大きくなると予測。今後、ごみステーションの脇には薪ステーションになっているという準備が、数年後には

必要になる。

既に北欧では、牛舎やし尿処理場で発生するガスを使用した発電施設の開発が進行し定着。お湯を使ったパイプで配給し暖房に使う等、行政がやろうと思えばどれも実現可能な施策。急ぐべきでは。当面、町の森林資源を暖房に活用する支援メニューを。

町長 以前より必要だという考え方と、薪ストーブ支援に否定的な見解もかなりあり、今まで出来てこなかった事が経過。新しい時代の中で、導入するか検討する必要がある。特に産業系に薪ストーブ、薪ボイラー等、方向性は十分あり得る。

古田人形公演に オンライン支援を

問 「古田人形芝居物語」今後予定の公民館・3月予定の町文化センターではオンライン公演支援を。

教育長 オンライン公演は感染症対策や会場に足を運ぶことができない方達のために検討してまいりたい。

その他の質問

- 地方自治法295条及び森林経営管理法第33条に基づき「森林再生ビジョン」発出と実施方針を
- 現役世代の負担軽減策として通パト&区会等 OBによるサポートのお呼びかけをされては



青木 俊夫 議員

企業誘致は今後、町が 取り組む成長戦略では

町長 町全体の土地利用調整を踏まえ検討する

問 町の更なる産業力向上に次年度以降に取り組む重点施策は。

町長 町の基幹産業である工業の維持発展は将来にわたる町の存続に欠かす事の出来ない視点である。小規模生産加工の事業所は人出不足が慢性化し、スキルを持った人材確保が難しい状況。また現在新規の工場用地、空き工場等の要望に応えられない状況もある。

問 箕輪町の製造品出荷額の推移は、他の市町村と比べてどうか。

町長 ここ5年ほど上伊那の中では2番、3番を争っている。伊那市、駒ヶ根市はやや増加傾向であるが、箕輪町は横ばいから減少傾向であると考えている。当町は足腰の強い中小企業が活躍しているが、更なる発展の為に新たな企業の誘致も視野に入れる必要を感じる。雇用の確保、U・Iターンの増進、子育て世代に来て頂くためにも製造業抜きには語れない。

問 10年、20年先を見据えた町の工業立地の推進条件、課題は。産業活性化策として成長戦略は。

町長 新産業であるとか高度技術を有する企業の誘致というようなことを含め、将来展望を持って次の世代につながるような形での成長戦略は必要。企業、種々の産業も新陳代謝が必要であり、町外、県内外から企業に来て頂きたい。

そういう意味では受け皿となる人と土地は重要なポイントである。

問 町が今後発展し、豊かな地域であり続けるためには多様な職業選択肢がある地域は有能な人材を引き付ける。企業誘致は町が取り組む成長戦略である。その為には専任部署、スタッフを設けてトップダウンで推進する体制が必要では。

町長 産業立地用地は基本的には民間開発に委ねて、進出企業にたいして個別支援という形で行政が応援する。今までとは違った形で展開も考え、方向性を出したい。

問 農水省の農産法の適用を受け、農振地域にあって工場団地の造成を進めるうえで、生産性の高い農業経営を目指す担い手育成、農地の集約化を進め、町のバランスを考えて土地利用の調整を進める事は今まさに時代の要請では。

町長 町全体の土地利用調整という事で役場の中に政策調整会議を設けている。農地、宅地それ以外の土地の在り方を明らかにしていく。来年度の事業で町内の皆さんの動向、都市部の企業動向を専門のコンサルにも調査、お願いし企業立地ができる、可能な場所をピックアップしていきたい。

木ノ下駅隣接地に待合所の設置を

問 現在1日進修高校生の2/3、約230名の生徒が通学に利用している木ノ下駅には風雨を凌げる場所がなく、ホームには屋根もベンチも無い。定住自立圏構想の中で待合所を設置しては。



進修高校生達の通学風景



要望している待合所の候補地

町長 町では木ノ下駅、松島駅、沢駅の環境整備事業に3年ほど取り組んできている。木ノ下駅は高校生の多くが利用している状況を考えると、待合所の設置については可能性があるかどうかはもう少し時間を頂きたい。

8月豪雨災害後の検証で見えてきた課題は



中村 政義 議員

町長 避難指示発令の判断は難しい

問 8月豪雨災害後、検証で見えてきた問題点、課題は。

町長 高齢者等避難または避難指示発令の根拠・時期・範囲は判断が難しく、特に範囲の問題については、今後の研究課題。

問 被災者支援システムの運用活用は。

町長 システムは取り入れている。応急危険度調査の情報管理や罹災証明の発行、仮設住宅など情報管理等に使われるシステムであるが、当町では活用はできていない。今回の指摘を受け体制整備をしていく。

問 今後地震等で他市町村に係わる広域災害が起きた場合、システムで連携し情報の共有、体制を整えるべきでは。

町長 大規模災害時の、人的物的支援は、外部からの支援が不可欠である。広域連携という意味合いでは県内市町村との協定がある。豊島区をはじめ相互応援協定をしており、定期的に連絡体制を取り災害時の情報交換もしている。

問 火災の起こりやすい時期となった、今後町の取り組みは。

町長 3月に5件、消防団が出動する火災が発生。町として「火災多発非常事態宣言」を発令し、町民への啓発周知をはかった。今後

消防に協力頂き、例年同様の夜警実施。安全パトロール隊の巡視、上伊那広域消防の広報活動の実施などで、町民が防火意識を持った生活へと結び付けていきたい。

今後もみじ湖の観光振興は

問 もみじ湖の今後の維持管理を考えるうえでも、周辺整備等の面でも、駐車場の有料化は必要では。



年々観光客が増えるもみじ湖

町長 一般論からは、渋滞対策・環境整備のための財源確保という意味合いから見ると有料化は大きな課題ではない。ただこのもみじ湖問題については、区画の確立、駐車場不足。本来のもみじのあり方そのものを変えなければならず有料化はあの場所ではかなり難しい。

問 町への宿泊率の改善と消費額の増減は。

町長 コロナ禍の中この数字をどう判断すべきかわからない。町宿泊率は2.2%。訪問客一人当たりの消費額は、675円と非常に低下した。

公共施設の今後は

問 複合施設の進捗状況は。

町長 複合施設は、社会福祉総合センターの代替施設という色合いを持ちながら、町民誰もが利用できる施設形態を考えている。JA敷地内のどこに建築するか、建築基準法等の問題を考慮、令和4年度中に発注、令和5年度に竣工。

問 今後、公共施設の改修の見通しは。

町長 耐震性がない建物については、耐震改修が基本的に必要。社会福祉センターの次の課題は博物館。来年度予算に取り入れたい。



来年度修復予定の郷土博物館

その他の質問

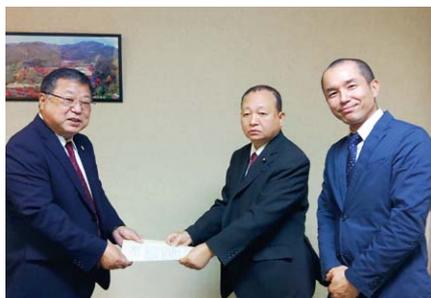
- 小中学校の現況について
- ウォーキンググランプリの実施について

原油高騰を受け、緊急的な生活支援・業者支援を

町長 生活支援は広く、業者支援も実施する

岡田 建二郎 議員

問 原油価格の急激な高騰を受け、11月17日に直接町長と懇談し、①高齢者世帯や生活困窮者世帯への支援、②農家やクリーニング業などへの業者支援、③福祉施設への燃油支援、④交通事業者への緊急的な支援の必要性を訴えた。3年前に灯油が高騰した時よりも2～3割以上値上がりしており、影響は深刻。とりわけ高齢者世帯の方々は生活費を切り詰め、暖房費も節約しながら寒さをしのいでいる。高齢者のみ世帯・生活困窮者世帯へは特段の支援を講じる必要がある。福祉灯油支援の実施について見通しは。



町長に原油高騰への支援を訴えた要請行動
(11月17日)

町長 原油高騰の影響が幅広い世帯に広がっていることに鑑み、なるべく広く分配したいと考えている。高齢者のみ世帯や生活困窮者は限定をつけざるを得ないが、別途支援の必要性を感じている。改めて追加の補正予算を用意している。

燃油高騰の影響が深刻な業者に支援を

問 ハウス農家やクリーニング業者、バス・タクシー業者、入浴サービスを行う福祉事業体など、燃油を多く使用する業界への影響が深刻となっている。11月から重油が値上がりし、ハウス農家はタンクへの給油を躊躇するなど心配している。また、福祉業界では送迎や入浴サービスを直撃している。コロナ禍で原油高騰とのダブルパンチとなっている町内業者へ高騰分の補てん等の支援が必要では。



燃油高騰の影響が深刻な施設園芸農家

町長 町内の各事業体を調査している。農業では花卉農家やイチゴ・キノコなど施設園芸農家へ、クリーニング業界では燃油と合わせて梱包資材や溶剤・ハンガーなど石油製品の価格高騰もある。福祉施設も含め、調査結果を見て支援の範囲を検討していきたい。

積極的な林業施策の推進を

問 白鳥町政の直近5年間は、林業施策の進展が鈍化していると言わざるを得ない。この5年間で間伐などの森林整備は288haであり、10年前の約半分の進捗となっている。区長さんたちも区有林の整備について大変心配されている。積極的な林業施策の構築を。



松島区議員の皆さんと区有林の活用について現地調査

町長 森林税や森林譲与税など、税制の変化も大きく、対応できていない面もあるので、よく反省し、森林整備を促進したい。

問 町内に林業法人を誘致することで森林整備が進むことも想定できる。林業機械への補助制度創設も含めて施策の充実を。

町長 林業事業体の誘致についてはイメージ化しなければならないと考えている。林業機械も非常に高いので、財政支援で森林整備が進むとなれば検討すべき提案。

大変厳しい状況にある農家の現況と支援は



荻原 省三 議員

町長 農作物等災害緊急対策事業への取り組み

問 果樹農家の凍霜害、燃料費の高騰による施設園芸農家・米作農家・酪農家のコスト増、また米価の下落、酪農の生産調整等、非常に厳しい農家の現状を町長はどのように認識しているか。



凍霜害の被害にあった果樹園

町長 農業問題が厳しい状況にあることは十分認識している。異常気象によって農作物の被害が大きく、果樹農家は凍霜害の影響がかなりのところで出ている。当初の被害額はそれほど大きくなかったが、10月・11月になり大変大きな額になった。共済だけでは不十分で収入保険でも対応できない状況のため、JA上伊那を通じ農作物等災害緊急対策事業に取り組んでいく。県への事業計画は提出してあるが、3月の補正で具体的に事業化していく予定である。また、原油価格高騰に関わる部分についても把握しているので提案す



る。米農家についても米価の下落や概算金の減少は承知している。酪農家の牛乳生産調整についてはJAとも相談する予定でいる。

みのわテラスオープン後の実績は

問 みのわテラスオープン後、来場者数等の実績はどのようになっているのか、また来年度はもっとイベント等を増やすべきと考えるか。

町長 4月にオープンしたみのわテラスも8ヶ月経過した。10月までの売り上げベースは事業計画比ファームテラス140%、やまびこテラス100%、サイクルテラス130%の状況であり、来場者数は8万3000人くらいで、イベント開催時にはさらに150～200%増になっている。今後も集客やリピーターを増やす意味でもイベントは必要だと思っており、来年度はできるだけ多く実施する。

副町長 イベントの問題はそれぞれの協議会と町も加わり検討する。朝市は継続的に行うが、場所の問題やファームテラスと重なる部分があるので出店者からもご意見を聞き改善する。いろいろな発信場所としては健康関係のイベント、ダンス、文化、芸術なども考えていく。

木下保育園をモデルに、保育士の待遇改善を

問 木下保育園の来年度の状況と配置は、また木下保育園をモデルに保育士が足りない部分を補うため保育補助員を多く採用するのはどうか。



4月オープンの新木下保育園

町長 令和3年11月末時点での園児数は182名、さらに今後増える見込みである。担任以下の配置は、現状は21人で今後プラスアルファしていく。他の市町村同様、当町においても未満児保育が多くなるため保育士不足を会計年度職員で対応する。基本的には国の基準に基づいてやっていく。待遇改善については、緊急の有給休暇等不十分なことは都度検討していく。資格を持っていない保育補助員の人数が多くなるのはどうなのか、との思いもある。

全日本合唱コンクール全国大会 中部支部代表で初出場

箕輪町内で頑張っている皆まんを紹介

箕輪中学校合唱部は、令和3年10月30日大分市総合文化センターで行われた第74回全日本合唱コンクール全国大会に出場し、見事銅賞を獲得した。ブロック代表として全国大会の本選に音源審査が入賞したことはあるが、生演奏は初めてだという。部員は現在男子8人、女子16人で計24人。運動部の男子にも応援してもらって出場。そんな生徒さん達にインタビュー。



初めて全国大会に参加して

- ・出場が決まったときは、めっちゃ喜びました。うれしかったです!
- ・みんなで全国に行けて、こんなに広いホールで歌えて嬉しかった。
- ・緊張より楽しさの方が大きくて、今までの練習を思い出しながら歌った。
- ・発表曲の「ケチャ」と「IMBENI～魂の夜明け～」はどちらもアフリカ関連のアカペラ合唱曲。全員が正確な音程で歌えるようになること、パートごとに声をそろえるなど苦勞が多かった分、全国大会というステージ本番で練習の成果を発揮できたことが部にとって大きな収穫となりました。

練習は厳しいですか

- ・日曜日以外はほとんど毎日練習があります。大会前は厳しく、朝30分くらい、放課後は2時間近く練習しています。冬季の放課後練習はありません。

3年生としての苦勞は

- ・自分たちが中心になった最初のころ、3年生自体もまとまることができず、たくさん話し合いをしました。
- ・大会が近づいてきて焦りましたが、「みんながあつての合唱部だから」と、心一つにしようと練習して頑張ってきました。

先輩から一言

- ・2年生が少ないけれど、その分一人ひとりが合唱部をしっかりリードして、思いきり楽しんでもらいたい。
- ・来年の1年生がどれくらい入ってくるか、これからの大会もあるので部員が増えるよう頑張ってもらいたい。

後輩から一言

- ・3年生は大きい存在で、尊敬する先輩方です。自分たちが同じようにできると不安だけど頑張っていきます。

経歴

- ★NHK 全国学校音楽コンクール
長野県代表 関東甲信越ブロック大会出場
奨励賞 (平成25年～7年連続)
- ★全日本合唱コンクール 中学校部門 混声合唱の部
第71回 (平成30年) 中部合唱コンクール 銀賞
第72回 (令和元年) 同 銅賞
第74回 (令和3年) 同 金賞
中部支部代表として全国大会初出場 銅賞
- ★「こども音楽コンクール」東日本優秀演奏発表会
平成30年度 最優秀賞受賞/文部科学大臣賞受賞
平成31年度 最優秀賞受賞



訃報

伊藤隆議員が、去る令和4年1月2日に逝去されました。

(享年71歳)

伊藤隆議員は、平成27年4月に箕輪町議会議員に初当選され、現在2期目の在職中であります。この間、総務産業常任委員会に所属され、町議会副議長、総務産業常任委員会副委員長などを歴任され、現在は議会運営委員会委員長の職にあり、町の発展に多大な貢献をされました。

謹んで哀悼の意を表し、心からご冥福をお祈り申し上げます。



編集後記

8月豪雨復興の手立てと新たな新型コロナ感染症対策に加え、原油価格高騰による住民生活への下支えと町政のメンテナンスはとめられない。12月議会では多様な住民要求を背に14人の議員が登壇し、町の課題認識と対策はより鮮明に具体的に進化しているので、お読み取り頂きたい。

「古田人形芝居物語」は、令和3年度学校教育基本方針の柱「自己肯定感をもち、創造的に生きていく教育の推進」の実践事例ではないかと表紙に表現。

今後の公演は3月5日17時から箕輪町文化センターで予定されている。子供たちの息づかいを感じていただきたい。

中澤千夏志

【議会広報特別委員会】

委員長 釜屋美春 / 副委員長 青木俊夫
委員 木村英雄 / 松本五郎 / 中澤千夏志

議会だよりに関するご意見がありましたらお寄せください。

役場議会事務局 電話79-3187(直)
メールアドレス gikai@town.minowa.lg.jp